

CONTENTS P1 コンテスト P2~3 活動報告(服飾学科/服飾表現学科/服飾文化学科/初年次教育課程/大学院造形研究科) P4 [特集1] SUGINOの産学連携 P5 [特集2] 生成AIとファッション教育 P6 大学祭・国際交流・研修会 P7 教育研究活動・卒業生、輝いています! P8 防災(避難)訓練・保護者会・INFORMATION

## 第62回 日本現代工芸美術展

「現代の工芸を創造する」展覧会として評価の高い(一社)現代工芸美術家協会が主催する全国公募の工芸美術展で、本学の大学院生が現代工芸賞を受賞しました。

**私**は、石川県の国指定伝統工芸である加賀織を五代目として継ぐとともに、伝統工芸自体の衰退を脱却、人を魅了させる加賀織を目指し、制作活動に取り組んでいます。

今回は、第六二回日本現代工芸美術展にて、作品タイトル「五候」で現代工芸賞をいただきました。この作品は、大学院で研究した作品の一つです。今までの加賀織とは違い、具象的な形をどれだけ本物に近づけられるのかを意識していくのではなく、針と糸を躍らせた抽象的な形で模索した刺繍絵画になります。「加賀織の新しい可能性を感じる」と評価していただき、やっと作家としてスタートラインに立てたと感じています。

今回の評価に満足せず、今後も加賀織の発展と共に、伝統工芸を盛り上げていけるよう精進して参ります。

現代工芸賞受賞



大学院・造形研究科造形専攻 2024年卒業 横山 幸希

## 第61回 全国ファッションデザインコンテスト

10月12日(土)、SUGINOホールにて第61回 全国ファッションデザインコンテストが開催されました。作品制作の部では、応募総数1,868点の中から本学在学学生6名が受賞・入選しました。

**作**品のテーマは「Diamond」。折り紙のバリエーションでダイヤモンドを表現する作品をデザインしました。

リサイクル素材を使い、折り紙コックで正四面体と立体化を構築し、ダイヤモンドのように異なる側面で、異なる形が見られるように表現しました。作品制作には、サンプルから様々な素材を使い、試行錯誤しながら様々な作り方を実験しました。全体の完成度を高めるために、バランスをよくする方法を探し続けて調整しました。先生や友達にもいろいろサポートしてもらい、大変ながらも楽しく、貴重な経験ができました。これからもこの経験を活かし、引き続き頑張りたいと思います。

ビームス賞受賞



モードクリエーションコース4年 楊 辰怡

## 第24回 YKKファスニングアワード

ファスナー・バックル・スナップ&ボタンといった“小さなパーツ”の可能性を見出す学生対象の日本最大級のファッションデザインコンテスト。総応募数8,608点の中からファッショングッズ部門で本学の楊さんが入選しました。

**作**品のテーマは「畳」です。別の形で、紙文化を身近に保存しておこうと思い、YKKのEXCELLA®ファスナーとBELNAP®ボタンの使用し、折り紙一枚のピースが、ボタンの位置と並び順によって、衿、ネックレス、ブレスレット、アクセサリなどに変化することができる、自由度が高いアイテムをデザインしたいと考えました。

モードクリエーションコース在籍なので、アクセサリを作るのは初めてでした。レザークラフトの全てのテクニクをゼロから学んで、試行錯誤の中で模索し、プロダクトコースの先生方にもたくさんサポートしていただきました。とても勉強になりました。経験になりました。



提供：YKK株式会社



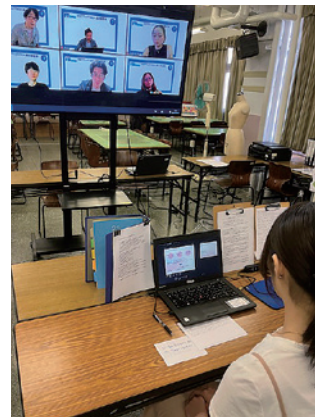
提供：YKK株式会社

モードクリエーションコース4年 楊 辰怡

## FB学会主催 学生ビジネスコンテスト

最終審査賞を獲得 (全国ベスト10入り)

ファッションビジネス学会が主催する、学生の育成支援を主旨としたコンテスト「FBアワードY2024」が開催され、本学ファッションビジネス・マネジメントコースの学生達が本年度も参加、優勝目指してチャレンジしました。コンテストテーマは「今、提案したいファッションビジネス」。申込み総数90チーム、総数342名の応募の中、本学からエントリーしたマネジメントコースのチームが一次審査を通過し最終審査会に臨みました。チームが提案したのは、災害発生時に被災地で役に立つファッション衣料品類のコンパクトパッケージ企画品のコンビニを販路としたビジネス提案です。そして最終審査会の結果、残念ながら優勝は逃しましたが見事に「最終審査賞」を受賞しました。コースとして実にこれで三年連続の受賞となります。



ファッションビジネス・マネジメントコース主任 鈴木 康久

# 服飾学科

## 企業見学研修

私たちは9月上旬にアパレル商品の製造過程を理解するために、都内の縫製工場株式会社 洋装店を訪れました。3グループに分かれての見学だったため、細部まで見て学ぶことができました。見学した中で一番印象に残っていることは作業工程が細かく分類され、一つの作業に集中することで技術習得も早く、作業の質を高めつつ効率も上げているということです。今までは「専門職」という言葉だけでその内容について細かく考えることは少なかったのですが、実際に現場を見学させて頂いたことで想像していたよりも集中力が必要な職業なのだと気づくことが出来ました。見学を通してでないと感じられない、細部までの徹底的なプロのこだわりや現場独特の緊張感を感じることの出来た貴重な経験となりました。



モードクリエイションコース3年 日根 花緒

## 産地見学

今回の産地見学旅行では、兵庫県に工場を構えるいくつかの企業を見学させていただき、生地や制服の生産過程を学びました。私たちがテキスタイルデザインコースで学んでいる糸の染色から織布までの基本的な知識に加え、新たに知見を得ることが多く、有意義な時間を過ごすことができました。各工程で驚きの連続でしたが、制服のスカートのプリーツをひとつひとつ手作業で丁寧に畳む工程には当たり前のように着ていた制服の有り難み、人の温かみを強く感じました。どの工場でも人の手や目が不可欠で、機械化が進む現代においても日本の産業は産地で働く方々の長年の経験に支えられて成り立っているのだと感じます。普段何気なく触れていた衣服や生地について、今回学んだことを今後の生活や学習に生かしていきたいです。



テキスタイルデザインコース3年 遠藤 歩香

## 浅草橋・蔵前エリアにおける皮革と部材の市場調査

浅草橋と蔵前は、日本で一番革が集まる場所として知られています。この地域を訪問し、市場調査や情報収集を行うために数回にわたり足を運びました。特に、第107回東京レザーフェア（協同組合資材連が主催する日本最大規模の皮革）の展示会で、初めて目にするさまざまな種類の革に触れながら、楽しく学びました。出展者の方々からも、皮革に関する説明を受けることができ、その場で直接お話を伺う機会もありました。その後、世界のカバン博物館にも見学に行き、展示されている作品についての説明を受けたり、バッグのスケッチを行ったりしながら、皮革の質感を直接感じる貴重な体験ができました。こうした実地の体験を通じて、革に対する理解や興味が深まることは、将来のクリエイションに大いに役立つと思います。



ファッションプロダクトデザインコース主任 肉丸 美香子

## メルカリ販売の体験授業

流通イノベーションコースでは3年生からEC販売の実践の授業を行います。EC実務で必須なのは、ささげ（撮影・採寸・原稿）のスキルです。そこで、今年の2年生プレゼミでは、EC販売の準備としてメルカリで各自の商品販売をする体験授業を実施しました。メルカリ社から講師が来校されて、原価計算や写真の撮り方、SNSによる販促などを指導して頂き、ネットで売れるコツを学びました。売れた学生、売れない学生がいましたが、それは写真の見せ方なのか、値段のつけ方なのかなど理由を皆で考えてみました。3年になった時、実際に商品を見ることができないネットでの販売は、「ささげ」の良し悪しで売れると理解することが大きな学びだと思えます。



ファッションビジネス・流通イノベーションコース主任 五月女 由紀子

# 服飾表現学科

## バルグループ SDGs体験プログラムに参加

株式会社バルグループホールディングス・バル井上財団の設立10周年を記念し、和歌山県で開催された「SDGs体験プログラム」にスタイリング専攻3年生2名が参加しました。伝統工芸の手すき和紙を用いたうちわ作りや森林探索、間伐材でのスプーン制作、さらに障がい者を雇用する農園の無農薬野菜や地元の食材を使用した日本料理を堪能するなどの体験が提供されました。参加学生からは『東京では味わえない自然とのふれあいや、地域と企業が密接に連携したSDGsへの取り組みを実際に体感できた』『将来自分が何かを発信できる立場になった際、今回学んだ事を広く知ってもらえるよう発信し続け、環境に優しい未来に繋げていきたいと強く感じた』等の感想があり、持続可能な社会へ意識を高める貴重な機会となりました。



スタイリング専攻3年 青木 美侑 徳蔵 涼海

# 服飾文化学科

## 2年生「レプリカ製作(民族衣装)」を通じて知る 衣服形態に関する学び

昨年、新設された服飾文化学科では、幅広い視野をもって衣服の特徴についての学びを重視した授業を実践しています。実物資料をもとにしたレプリカ製作は、他大学においても教員の個人研究や、大学院での授業等で取り組まれています。学部生を対象とした授業としては、本学科独自の試みと言えるでしょう。

今現在私達が着用している衣服は、ヨーロッパを中心に発展を遂げてきた技法を基に生産されています。一方で他の国や地域に目を向けると、私たちにとは思いもよらぬ裁断方法や縫製方法が散見されます。そこには、その土地固有の暮らしや信仰心が反映されています。「レプリカ製作(民族衣装)」では、杉野学園衣裳博物館所蔵の服飾品の調査を通して、素材や構造、縫製技術を理解し、再現製作をします。



服飾文化資料研究室 菅野 ももこ

# 初年次教育課程

## Tote bag contest 2024

初年次の全学生を対象に、デザイン画部門では、「オープンキャンパスで”もらったうれしい”トートバッグを描き、実物制作部門では、好きなトートバッグを制作するコンテストを実施。デザイン画は初年次全学生による投票を行い、実物制作は専門課程の先生方に審査をして頂きました。学生達に刺激になっていけばと思います。 初年次教育課程連絡委員会 水野 真由美

### グランプリ受賞者の声



近年プラスチック削減の取り組みにより邪険にされている「ポリ袋」の形そのものにある可愛さに注目し、長く使えるようキルティングの生地で作りました。

制作にあたり、納得のいくまで丁寧に仕上げることを意識していたので拘りを評価して頂けてとても嬉しいです。受賞をバネに、より良い作品を作れるよう頑張りたいです。

服飾表現学科1年 高島 優那

### グランプリ・縫製賞



### アイデア賞



夏坂 美優

### 技術賞



鄭 建成

### コーディネート賞



吉澤 心希

### [デザイン画] グランプリ

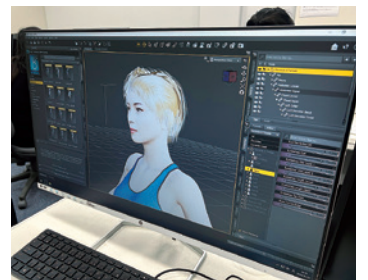


江原 陽希

# 大学院造形研究科

## ものづくりは生き残ることが出来るか —造形研究科の取組み紹介—

造形研究科での研究では、制作のプロセスを重視しています。人を想い、思いつき、企て、探し、物質と向き合い、工夫をし、失敗をし、つくり、もどし、信じ、疑い、理を想い、打算的になり、純粋に感じる生き物となり、技を術とし、それに溺れ、それを方法とし、矛盾の中で呑み、そうしながら、やっとの思いで「結実」させていく。本来人間が行うものづくりとは、そのようにじっくりと時間をかけて行われる「営み」ではないでしょうか。例えば本科の授業内で、「エスキース」や、「構想」等の言葉がよく飛び交います。プログラミングされた成果主義のためのものづくりとは違うものづくりが生き残って行くために、我々はめんどくさい人間の「営み」にことごとん付き合っていくつもりです。



大学院造形研究科 研究科長 瀬古 徹

# SUGINO の産学連携

ファッションの専門教育を行っている本学では、日頃の教育研究成果をアパレル関連企業と協同・連携して実社会につなげていく様々なプロジェクトを長年にかけて取り組んでいます。産業界でいま何が課題になっているのか、何が求められているのか、学生たちが直接向き合い、考える大事な学びの場になっています。

## ワールド × ティンパンアレイ × 瀧定名古屋 × 杉野服飾大学

ベース基幹科目として設計される「産学連携プロジェクト」も現在のスタイルに変更されて今年で4年目を迎えます。当初は(株)ワールドとの連携でスタートしましたが、協力サポート企業も年々増えて参りました。今では、全体を3つのステージに分け、第1ステージでは主に市場ニーズを捉え現代社会に適合するブランド開発を行い、第2ステージでは、展開MD構成の中に、廃棄衣料を活用したアップサイクル商品の企画及び制作を組み入れています。そして第3ステージでは、市場にアプローチしていく事で一連の学習ストーリーが完成します。情報発信も重要なため各チームがSNSをフル活用し、また昨年度はTBSのSDGS企画に参画し、赤坂サカスでショー形式による情報発信も行いました。



デザイナーと打合せ



ワールド・トリエでリメイク作業



企画をプレゼン中

ファッションビジネス・マネジメントコース主任 鈴木 康久

## 【店舗開発企画】 彩ユニオン × トゥディスプレイ × 杉野服飾大学

3 年次コース基幹科目「産学連携プロジェクト」にて実企業とブランド開発を行っていますが、その開発したブランドを更に4年次の「店舗開発マネジメント論」にて実際に店舗出店していくまでのスキームを総合学習しています。高度に成熟した消費社会では、商品のみによる差別化は難しく、VMDや空間創造も含めた総合的な価値連鎖を市場に提供していく事が求められています。



VMD

現在このプロジェクトを(株)彩ユニオンと産学連携にて取り組んでおり、2024年度は6チームにて店舗開発を推進し、最優秀賞を獲得したチームは実際に(株)彩ユニオンの提供する什器類を活用しながら、本社ショールームにて単独の展示会を実施できる栄誉をいただく事ができました。



ファッションビジネス・マネジメントコース主任 鈴木 康久



来場者に説明

3 年ゼミでは、(株)三越伊勢丹オンラインストアと(株)ささげ屋との協業により、ECサイト作りの職業体験プログラムを実施しております。ECサイト作りに必須の「ささげ」(撮影、採寸、原稿)に加えてレタッチ(画像修正)などを、イセタスタジオにおいて、プロの方の指導のもと全員が実務を体験しています。スタジオだけでなく、新宿伊勢丹の店舗見学もプログラムに含まれており、オンラインショップのペルソナはどのようなのかなど、VMDやお客様をリサーチしながら考え、店舗とECは融合していることを理解します。学生たちは撮影やレタッチしたものがオンラインストア上に実際にアップされることを想定すると、将来EC職に向けての就職意欲を高めて学習しています。 ファッションビジネス・流通イノベーションコース主任 五月女 由紀子

## 三越伊勢丹 オンラインストアにおける EC 職業体験プログラム



## 制服スカート生地デザイン

中 高生の制服として用いられるチェック柄の考案を毎年3年生が挑戦しています。はじめに制服に求められるニーズや現状、ウール素材がなぜ制服に適しているのか、そしてデザインの方法などを学びます。昨年、今年度は繊維の染色から織布、プリント加工まで製造の工程も工場見学しました。その後コンセプトを決め、プリントスカートやスラックスにするための柄の制約、糸の色、番手、密度、組織などを考慮し、専用ソフトを使用して制作します。そのプロセスも学び、最後は企業の方にプレゼンテーションをし、審査していただきます。昨年度制作した20点の中から3点、織布していただいた生地が完成しました。



テキスタイルデザインコース主任 田口 雅子

# 生成AIとファッション教育

生成AIを活用することが企業でも個人でも当たり前となってきた現在、ファッション界において企業や教育現場はどのような課題に向き合い、進んでいるのか。「Rakuten FWT 2025S/S」のスペシャル関連イベント「TOKYO AI Fashion Week 2025S/S」とあわせて実施されたセミナーに服飾学科ファッションビジネス・流通イノベーションコース主任の五月女由紀子教授が登壇、実際に本学で行われている授業内容が紹介されました。

## TOKYO AI Fashion Week 2025S/S セミナー登壇より

一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構の主催で、9月初旬から始まったRakuten Fashion Week Tokyo 2025S/Sの関連イベントとして、TOKYO AI Fashion Week 2025S/Sが2024年9月20日に開催されました。イベントはコンテストとセミナーの二つで構成されており、今回のメインテーマは「生成AIとファッションの未来」です。五月女はセミナーの教育セッション「生成AIとファッション教育の未来」で登壇しました。東京モード学園からは、デザイン担当教員による生成AIのデザイン生成から服作りまでの造形授業について説明し、杉野服飾大学からは、ファッションビジネス・流通イノベーションコース3年生で実施した、生成AI「Maison AI」を用いたファッションビジネスの教育内容を紹介致しました。この授業では、Maison AIを使ってTシャツのデザインを考案、製品化し、EC販売からお客様への発送までの一気通貫のビジネス体験を実施しました。学生は5チームに分かれ、各チームにはCEO、デザイナー、財務担当、マーケティング担当、EC担当、PR担当といった会社組織のような役割を作ります。最初はブランドコンセプト作りから始まり、ブランド名やTシャツデザインなどの商品企画、サンプルの業者への発注、サンプルの撮影といった作業を進めていきます。その後、SNSでの販売促進を行うなど、各プロセスで生成AIが幅広く活用されました。セミナーでは1チームを中心

に説明を行いました。デザインだけでなく、ECサイトや販売促進のためのSNS投稿文の作成、コンセプト作りやターゲット選定など、多岐にわたり生成AIを活用したと、多様な生成AIの活用事例を報告しました。

また、生成AIの授業に取り組むにあたり、教員自身が日々進化するMaison AIの開発を把握し指導するために、画像生成10点にチャレンジしてTOKYO AI Fashion Week 2025S/Sコンテストに応募をしました。テーマは「Authentic: 未来のクラシックを創る」です。1次審査、2次審査、最終審査まで残りしましたが、優秀賞の受賞には至りませんでした。しかし、コース主任自らが生成AIを用いてデザイン制作を行う過程で多くの学びがあり、プロンプト(AIに指示する言語)のポイントや画像の修正方法など、ビジネスの学生にどのように指導するかなどがステップアップできたと思います。今後も進化が著しい生成AIの開発を研究することで、コース学生全員がスキルアップする指導を目標にしたいと考えております。

ファッションビジネス・流通イノベーションコース主任 五月女 由紀子



## 資格課程

### 教育実習を終えて

私は長崎県に所在する中学校で3週間の教育実習を実施して参りました。教育実習生として母校に帰り、また学ぶことができ嬉しく思います。初めは不安が大きく、3週間の教育実習を乗り越えられる自信がありませんでしたが、生徒や先生方に支えられ、様々な経験をさせてもらい、沢山の学びを得ることができました。また、教育実習の事前指導がとても役立ち、実習に活かすことができました。教育実習で得た学びは、教師としてだけでなく、社会人としても活かせることが多く、実習前より自分たち自身とても成長出来ました。教育実習で学んだことは、教育実習報告会で後輩たちに伝えることができたと感じています。先生方のご指導に感謝申し上げます。

モードクリエーションコース4年 岡野 李帆



### 教職課程

### 学芸員課程博物館実習 in 長崎!!

私たち学芸員課程4年の8名は9月14日～16日に博物館実習旅行へ長崎県を訪れました。1日目は波佐見町歴史文化交流館、2日目は長崎歴史文化博物館・長崎ペンギン水族館・長崎県美術館、3日目は九十九島水族館海きららへ行きました。11月9日に実施された実習旅行報告会に向けて、建物や展示方法など各自興味のある分野をあらかじめ決め現地で調査を進めました。現地では実際に動かれている方からのお話やバックヤードの見学をさせていただく機会もあり、どれも勉強になることばかりでメモを取る手が止まりませんでした。普段と違う自然に囲まれた土地での実習旅行で貴重な経験が沢山でき、とても楽しく有意義な3日間でした。



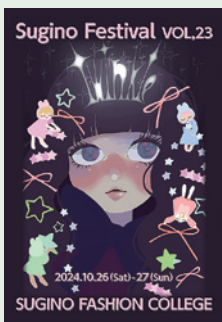
モードクリエーション4年 程原 実菜緒

### 学芸員課程

## 大学祭テーマ「twinkle」

今年のテーマはtwinkle

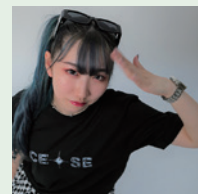
一人一人の輝きが  
大きな力となって異彩を放ち  
きらきらと煌めく瞬間を共に  
体感しよう・・・  
という想いが  
込められています。



# 大学祭

## 大学祭実行委員長あいさつ

今年の大学祭テーマは『Twinkle』。「一人一人の輝きが大きな力となって異彩を放ち、きらきらと煌めく瞬間を共に体感しよう」という想いを込めて決定しました。去年よりステージ企画が増え、ファッションショーのルール変更や、大学祭をみんなで楽しみながら盛り上げるために、新しい試みとしてドレスコードファッションショーは1～3年全クラス・コース参加とし、“シルバー”カラーで、チームごとにスタイリングを組んでコーディネートを競い合いました。参加した皆さん、とても楽しそうでした。今年の大学祭も盛り上がり大成功で終わることができました。  
ファッションビジネス・流通イノベーションコース3年 里見 琳花



## FASHION SHOW



## 国際交流

### イタリアIUAD (Institute of Universal Art and Design) ※提携校

ミラノ中央駅の隣接地に2017年に設立されたIUAD校と本年5月に提携を行っています。今後本格化していく相互交流を前に学習内容や教育施設等の調査・確認のため渡欧致しました。元々メンズテラーを母体としてナポリに本校が1967年に創設され、ミラノ校はその分校となります。ビジネスコースを含めて5つのコースによる学習環境が設計される単科大学となりますが、その特性とするところは本学と近似しています。またダブルディグリー協定(単位互換制度)やEU諸国の特徴となる Erasmus+ プログラム(大学間交流協定等による共同教育プログラム)に2014年より参加しており、その提携先も40校を超えるという教育機関でありながら積極的な取組みが特徴となります。

ファッションビジネス・マネジメントコース主任 鈴木 康久



### 中国の交流協定校の学生を招聘して

「杉野服飾大学で日本のファッションと文化を学ぶ」と題した短期研修旅行を開催しました。本学が国際交流の一環として毎年実施している研修旅行に参加するため7月15～26日には、浙江理工大学(浙江省杭州市)の学生10名と引率教員1名、7月30日～8月6日には浙江紡織服装職業技術学院(浙江省寧波市)の学生14名、引率教員2名が来日しました。本学の教員によるドレパタやビジネスなどの授業を受講、本学学生との交流、都内の市場調査や企業見学、休日には鎌倉や富士箱根など、短期間でしたが濃縮した内容で、日本の一端を体感できたことと思います。

学生部 柴田 弘子



## 研修会

### 「ファッション教育における生成AIの活用の事例」

講師 五月女 由紀子 教授(ファッションビジネス・流通イノベーションコース主任)

### 高大連携・教員合同研修会

昨今、ChatGPTを始めとする生成AIの開発や活用が急速に進展し、多様な分野での職種や業務の補助ツールとして、便利かつ効率的な存在になっています。本学では生成AIを使用するにあたって留意すべき点等についてのガイドラインを作成し、それに基づいた授業を展開しています。研修会では「TシャツプリントをAIでデザインしネット販売した産学連携の中での事例」「画像生成AIによるブランド作りの事例」の報告、未来の生成AIを使用したファッション分野の方向性、アルファ世代への展望について講演していただきました。今回、8名の高等学校の先生方にご参加いただき、情報共有の時間を持つことが出来ました。

大学FD研究委員会 井口 多恵子



杉野服飾大学若手教員作品展「keep making」

服飾造形、モードクリエーション、ファッション画、ドレーピング&パターンメイキングの授業でそれぞれ助手として仕事をしている本学の若手研究者5名による、所属を超えての作品展を『gallery U』にて開催しました。

「keep making」というテーマには、教員、研究者として、“作品を継続して、つくり続ける”という意味を込めており、2023年11月の第1回に引き続き、今回が第2回の開催となります。1年間の造形研究成果を学内外の多くの方に公開し、評価していただく機会は、研究や教育の幅を広げるために重要な事だと改めて感じました。第2回が開催できたことに関係者への感謝を述べるとともに、継続してこのような機会を設けられるよう、研鑽を積み今後更なる研究への糧としたいと思います。

**会期** 2024年11月26日(火)～29日(金) **会場** gallery U  
**出品者** [服飾造形研究室 助手] 内田 早南、渋谷 美沙希、中野 友恵 / [ファッション画研究室 助手] 富井 さくら / [ドレーピング&パターンメイキング研究室 技術助手] 青島 知里  
 服飾造形研究室 助手 中野 友恵



展示会「SUGINO FASHION PRODUCTとその仲間たち」



「ファッションプロダクトは楽しい」というコンセプトをもとに研究室のスタッフと本コースの卒業生とコラボレーションによる企画展示です。新しいメンバーとして昨年より、更に3名の仲間が加わり、これまで以上に幅広く充実した内容の展示になったと思います。

私たち自身がファッションプロダクトに対して抱くワクワク感を観に来てくださる方々と共有できる喜びを目指し、今回の発表を企画しました。ファッションプロダクトのデザインと制作を通じて仲間を増やし、皆様により楽しんでいただけるような企画を考えていきたいと思います。



ファッションプロダクトデザイン研究室 肉丸 美香子

監修『もっと! モダリーナのファッションパーツ図鑑』刊行

前作『新版モダリーナのファッションパーツ図鑑』、『Men's モダリーナのファッションパーツ図鑑』に引き続き監修に携わりました。今回は民族衣装やベビー服、アクセサリパーツなど、さらに幅広いアイテムが掲載されています。ファッションを学んで来られた方にも楽しんでいただける珍しいアイテムが揃っています。特に民族衣装については知らなかった衣服が多々あり、その素材・色・形の面白さにワクワクし大変勉強になりました。ファッションデザインはもちろん、イラストやキャラクターデザインの参考にもご活用いただけたと思います。



ファッション画研究室 數井 靖子

卒業生、輝いています!

**私** は京都のマンションの一室で1人で製作をしている。採寸しトワルを組み、仮縫いを経て縫製、納品する。窓からは比叡山が見え、近所の川辺では鹿が草を喰んでいる。

製作した服は売る現場がなければならぬが、私にとってパーソナルで身体スケールから外れない人との繋がりの中でそれは形作られてきた。

今、急速に変化するこの世界の中で私たちができることは、絶対的な思想やシステムを据えて自らは思考停止するという、ある面合理的とされる姿勢をとるのではなく、あくまでフィジカルに、都度つど物事とのコミュニケーションを誠実に立ち上げていくことではないか。

昨年、杉野芳子先生『炎のごとく』を読み返すことがあった。



photograph : Takahiro Kohiyama



photograph : Takahiro Kohiyama

特に仮縫いについて書かれている箇所では、改めてその重要性を認識し、自分の仕事を肯定された気がした。

私たちが学んできた仮縫いという技術は、単に仕立て屋的な古典技法(になりつつある)に留まらず、この先、より豊かなコミュニケーション手段にもなるはずだ。少なくとも搾取し人を損なうシステムにはならないのではないか。

アートの語源と言われるギリシャ語のテクネには、手仕事と共に医療の意味も含まれていたという。私には仮縫いとは、手当てし癒す事のメタファーにすら思える。飛躍しすぎているだろうか。

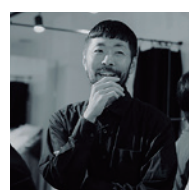


ARC 和歌山産ニツト生地を使用した服の展示



All products are made by Shoji Miyai. 全ての製品は本展覧会によって制作されています。 design : Shoji Miyai

**木間 俊輔**  
 大学院 造形研究科造形専攻 2014年修了  
**【経歴】**  
 大学院修了後、アパレルメーカー数社に勤務。  
 2019年より木間服装製作を開始。



photograph : 東野 誠

## 防災（避難）訓練

2024年7月9日（火）11：45より1年生対象の防災（避難）訓練を実施いたしました。訓練は本校舎、第二校舎、第三校舎で行われ、11時45分にスタートしました。点呼と安否確認を行い、各クラス担任が本部に報告を行い、訓練は終了しました。品川消防署の方より総評もいただきました。この機会に日頃から防災意識を高め、学校や自宅近辺の避難経路などを確認しておくことが大切です。万が一災害に遭った場合は、きちんとした情報に耳を傾け、行動しましょう。



学生サポート連絡委員会 肉丸 美香子

## 保護者会

2024年10月27日（日）13：00より第二校舎小ホールにて、第2回大学1年生保護会を開催いたしました。当日は31名の学生の保護者様にご参加いただきました。前半は学長、学部長、就職部長、教務部長より、コース・専攻の選択、就職関連、行事予定などのお話をさせていただき、後半は各クラスに分かれて、担任・副担任による懇談会を行いました。当日は大学祭の開催期間中ということもあり、各クラス・コースの展示やファッションショーなどもご覧いただくことができました。学生サポート連絡委員会 肉丸 美香子



# INFORMATION

## 図書館

### 図書館映画鑑賞会 ～LIBRARY CINEMA～

世界でも最も注目される映画賞のひとつである「アカデミー賞」。図書館では、「アカデミー賞」の部門「衣裳デザイン賞」受賞の映像資料を所蔵しています。受賞した作品は、図書館で毎年開催している映画鑑賞会で紹介をしています。どの作品もジャンルや時代は様々で、登場する衣装も多種多様です。映画鑑賞会は、図書館の蔵書として映像資料の周知とともに、多くの優れた作品に触れることで得たインスピレーションを学業に活かしてもらいたいという趣旨の企画でもあります。在学生はもちろん、利用者カードをお持ちの卒業生・高校生もご鑑賞いただけます。開催時は、SNSでもお知らせしております。どうぞお気軽にご参加ください。



## 博物館

博物館では1月27日まで「花もよう」展を開催中です。本展では、古くから密接に結びついた人間の生活と花との関係に着目し、収蔵作品の中から花模様が施された衣装や服飾小物を展示します。1階はそれぞれの国による表現の違いを、2階は日本で制作された花模様の衣装をテーマに作品を紹介します。昨年度ご寄贈いただいた、ヴァイオリニスト佐藤陽子氏のステージ衣装や池田満寿夫氏デザインの着物ををはじめ、初出品の作品を多くご覧いただけます。また2025年度は杉野学園創立100年にあたり、関連展示を行います。皆様のご来館をお待ちしております。



※本学学生・教職員は無料。学生は、受付にて学生証をご提示ください

## 教務部

### 後期末の授業・諸行事予定について

- 2025年 ●
  - 1月6日（月）（冬季休業明け）平常授業開始
  - 1月27日（月）後期平常授業終了
  - 1月28日（火）～2月1日（土）試験・補講・集中
- 集中授業 ●
  - 2月1日（土）、15日（土）～17日（月）教職特別授業及び教壇模擬演習（大3教職履修者）
- 採点結果発表 ● 2月13日（木）
- 追再試手続き ● 2月13日（木）
- 次年度オリエンテーション ● 1月28日（火）～2月1日（土）
- 追再試験 ● 2月19日（水）～21日（金）
- 卒業式 ● 3月19日（水）

## 経理部

### 2023年度 決算の概要（事業活動収支計算書）

[2023年4月1日から2024年3月31日まで] (単位：千円)

科目	金額	
<b>【教育活動収入】</b>		
学生生徒等納付金	958,430	
手数料	12,191	
寄付金	6,384	
経常費等補助金	160,621	
付随事業収入	95,903	
雑収入	54,708	1,288,237
<b>【教育活動支出】</b>		
人件費	852,774	
教育研究経費	537,757	
管理経費	179,885	1,570,416
教育活動収支差額		△ 282,179

科目	金額	
<b>【教育活動外収入】</b>		
受取利息・配当金	3	
収益事業収入	50,000	50,003
<b>【教育活動外支出】</b>		
借入金等利息	938	938
教育活動外収支差額		49,065
<b>【特別収入】</b>		
資産売却差額	70	
その他の特別収入	50,728	50,798
<b>【特別支出】</b>		
資産処分差額	0	0
特別収支差額		50,798
基本金組入前当年度収支差額		△ 182,316
基本金組入額合計		△ 139,384
当年度収支差額		△ 321,700

### 2024年度 杉野服飾大学・杉野服飾大学大学院 -卒業制作・卒業論文・修了制作 発表会-

#### 大学 服飾学部

服飾学科	モードクリエーションコース	ファッションショー	2月8日（土）	SUGINO HALL(保護者・高校生・教職員のみ)
	インダストリアルパターンコース	口頭発表	2月6日（木）	2102教室 15:00～15:50
		作品展示	2月7日（金）～8日（土）	小ホール前エントランス
	テキスタイルデザインコース	口頭発表	2月6日（木）	2303教室 13:30～14:20
		作品展示	2月6日（木）～8日（土）	2001教室 10:00～16:00 (初日は14:30～)
	ファッションプロダクトデザインコース	口頭発表	2月6日（木）	小ホール(2105) 11:00～
作品展示		2月6日（木）～8日（土）	小ホール(2106) 10:00～16:00 (初日は13:00～)	
ファッションビジネス・マネジメントコース	口頭発表	2月5日（水）～7日（金）	3403教室 10:30～14:00	
	卒論展示1	2月5日（水）～7日（金）	3402教室 10:00～15:00	
	卒論展示2	2月5日（水）～8日（土）	小ホール前エントランス(抜粋)	
ファッションビジネス・流通イノベーションコース	口頭発表	2月7日（金）	3110教室 13:00～17:00	
	卒論展示	2月6日（木）～8日（土）	小ホール前エントランス(抜粋)	
服飾表現学科	衣装表現専攻 スタイリング専攻	【日野校舎】 プレゼンテーション	2月1日（土）	R棟101・102
		作品展示	2月1日（土）～3日（月）	G棟1～3階 B101 他
	ビジュアルマーチャンダイジング専攻 メディア表現専攻	【目黒校舎】 プレゼンテーション	2月8日（土）	2003教室
		作品展示	2月8日（土）～10日（月）	第2校舎地下EVホール

※詳細は後日manabaiに掲載されます。全学科の卒業制作・卒業論文の内容が動画・画像でアップされる予定です。

#### 大学院

造形研究科	創作表現コース	胡 詩園	作品展示 (A:写真 B:服)	1月29日（水）～2月2日（日） 11時から20時(最終日は17時まで)	Gallery Conceal space A (渋谷)
		品川 渚夏	作品展示 (A:写真 B:服)	1月29日（水）～2月2日（日） 10時から19時(最終日は17時まで)	TERRITORY GALLERY (千駄ヶ谷)
	3Dデジタルモデリングコース	高橋 芽衣	作品展示	1月16日（木）～1月22日（水） 10時から17時(19日(日)除く) (初日は午後のみ、最終日は16時まで)	第2校舎 地下EVホール

### SUGINO 杉野服飾大学報 No.46

編集 鈴木 桜子、井口 多恵子、伊藤 高広、数井 靖子、  
菅野 ももこ、高橋 大夢、羽賀 友美、水越 綾

発行日 2025年1月27日

発行 杉野服飾大学教授会 印刷 カラー印刷株式会社